

リーダーシップを育む広大型女性研究者支援

(実施期間：平成19～21年度)

実施機関：広島大学（代表者：浅原 利正）

課題の概要

全学男女共同参画推進委員会の下に設置した女性研究者支援プロジェクト（Career Advancement Project for Women Researchers: CAPWR）研究センターを活動の中心に、人材育成を核とした以下の女性研究者支援策を遂行する。

【リーダーシッププログラム】

- ① 研究・教育支援者を養成する「リサーチアシスタント・インターンシップ」（学生対象）
- ② 女性研究者の育成と代替教員を補充する「プロフェッサーシフト」（研究者対象）

【両立支援環境形成プログラム】

- ① 研究・教育、育児・介護支援要員の需給を行う「支援者バンク」の運営と利用費の補助
- ② 多様で柔軟な就労形態の相談・提案・調整を図る「キャリア支援担当員」の配置
- ③ 学内保育施設と学内・地域ネットワークを活用した「子育て支援の拡充」
- ④ 在宅でも同じ環境で仕事ができる「ユビキタス研究環境の整備」

【意識改革プログラム】

- ① 次世代女性研究者育成プログラム
- ② 意識啓発セミナー・シンポジウムの実施
- ③ 女性研究者ネットワークの活性化

（1）総合評価（所期の計画と同等の取組が行われている）

男女共同参画推進室を設置し効果的に取組を展開し、本事業の柱である人材育成、両立支援及び意識改革について所期の計画は達成している。人材育成として女性教員の昇任を目的としたプロフェッサーシフト・プログラムの設立、資金獲得セミナー及びスキルアップ講座、両立支援として病後児保育支援、保育のための協働メーリングリストの作成と運用及び両立支援者バンクの運営、意識改革として副理事による女性研究者及び女子学生を対象としたヒアリングなどを効果的に行っており、総合的な評価は高い。今後、テニユア職や上位職の女性研究者数の増加、支援者バンクの活用などについての検討及び必要策の推進を期待する。

<総合評価：A>

（2）個別評価

①目標達成度

男女共同参画推進委員会を事業支援開始前より設置するとともに、「広島大学男女共同参画宣言」、女性教員比率に係る数値目標、キャリア支援担当員の配置、人材育成、両立支援者バンクの運営などを効果的に行ったことは評価できる。今後は、プロフェッサーシフト・プログラムにおけるリーダーシップを育む取組の一層の明確化を期待する。

②システム改革の成果

「女性研究者支援プロジェクトセンター」の新設、女性教員の採用又は昇任のための原資を確保（全学調整分の内の30%）、部局ごとの女性教員採用割合の目標設定等の女性研究者数の増加に

向けた取組、副理事など大学の意思決定に参画する女性数の増加など、システム改革の成果が評価できる。今後は、取組効果がより全学的に浸透・具体化されることを期待する。

③取組の妥当性・効率性

計画された取組は概ね妥当に遂行されており、女性研究者のニーズを把握し、人材育成、両立支援、意識改革とバランスよく総合的に女性研究者支援を行っている点が評価できる。「くるみんマーク」にも認定されており、また、「支援者バンク」は支援者の確保が容易でない地方大学にあっては効果が見込まれる。今後は、ペアリング・チューター制、支援者バンク等の実効性の向上のための検討及び方策を期待する。

④波及効果

中国四国地域における女性研究者支援の中核を担うとともに、同地域における合同シンポジウムを企画・開催し情報発信を行うことにより、他機関の関心を喚起し意欲的な取組につなげたことは評価できる。今後とも、同地域の中心的役割を果たすことを期待する。

⑤実施体制の妥当性

学長主導による男女共同参画担当副理事の配置、「男女共同参画推進室」の設置を行い、全学体制で本事業に取り組む体制の整備、役員の本事業に対するコミットメントの確保を進めたことは評価できる。今後は、実施体制がより全学的に広がりを持つことを期待する。

⑥実施期間終了後における取組の継続性・発展性

事業終了後も専任事務職員、キャリア支援担当員の雇用を継続し支援体制を確保するとともに、人材育成、両立支援、意識改革の取組を継続する多額の予算も計上されていることから、今後の継続性、発展性が期待できる。

(3) 評価結果

総合評価	目標達成度	システム改革の成果	取組の妥当性・効率性	波及効果	実施体制の妥当性	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
A	a	a	a	a	a	a